

急激な融雪 災害誘発も

山梨大准教授 増水、地滑り注意

記録的な大雪を受け、山梨大工学部の市川温准教授（水工水理学）は今後、急激に雪が解けると、河川の増水や土砂崩れの恐れもあると、注意を呼び掛けている。

市川准教授によると、現在甲府盆地は雪という形の大量の水がたまっている状態。今後気温が上昇して短時間で雪解けが進むと、この水が河川などに一気に流れこみ、「増

水や氾濫、低い土地では冠水が懸念される」という。また、標高の低い山や傾斜地では地盤がゆるむ恐れがあり「土砂崩れや地滑りが起こる可能性もある」と指摘し、「河川の近くや傾斜地の住民は注意してほしい」と語る。

さらに、市川准教授は水路の危険性にも言及。水路に雪を落とすと下流で雪が詰まり、水が道路にあふれ出した

り、住宅などに浸水するなど被害が拡大することもあるといい、「水路に雪を捨ててはいけない」と注意する。水路に雪が積もっている場所では、誤って踏み抜いて転落し、流される事故も考えられることから「水路には近つかないことも大切」と話している。

〈村上裕紀子〉